

事業概要書

事業名	気仙沼被災者コミュニティ作り支援事業				
開始日	2011年10月1日	終了日	2011年12月31日	日数	92日
団体名	気仙沼ボランティアネットワーク聖敬会				
(カウンターパート)	-				
スタッフ人数	10人				

事業費総額 (税込)	2,492,000 円
------------	-------------

事業目的	被災者がアクセサリーを手作りすることを通して被災者の孤立化防止や被災者の新しいコミュニティ作りを支援し、気仙沼地域における立ち上がろうとしている被災者の後押しをすることで、一日でも早いコミュニティの復興につなげる
事業全体の概要	<p>●気仙沼ボランティアネットワーク聖敬会とは 気仙沼の有志の市民を中心に震災後に立ち上がったボランティアグループ（任意団体）。現在の構成員10人のうち、9人が被災者によって構成されている。在宅避難者に対する物資の支援や孤立化防止のための見廻り、また復興市や日曜児童館の開催など多岐に渡る活動を行っている。</p> <p>●事業背景 震災から半年が経過し、気仙沼においても大半の被災者が仮設住宅へと入居し、新たな生活を始めている。しかし、仮設住宅には市内の各地から抽選で入居した被災者が集まっており、お互い面識がなく自治会やコミュニティが存在しない仮設住宅も多い。また、仮設住宅だけではなく、親類や知人の家に身を寄せたり、新たに自宅を借りて新天地で生活を始めた被災者も多数存在する。そのような中、震災前に働いていた職場が被災し失業した方も多く、仕事が無く将来の展望が見えない中で、近隣に知人が存在せず自宅で大半の時間を過ごすことは孤独感を増し、精神的なストレス増加にもつながりつつある。そこで、被災者が孤立化することを防止し、被災者の新しいコミュニティ作りをするために事業策定を行う。</p> <p>●事業内容と独自のアプローチ 現在行われている孤立化防止や新しいコミュニティづくりのための施策としては、保健士による仮設住宅の見廻りやお茶会の実施等が挙げられる。これらの施策も有効性は認められるものの、より効果的なアプローチとして、ミサンガ等のアクセサリーを作成することを通してコミュニティ作りを行う本プロジェクトを開始した。まず、アクセサリーを作成するという目的のもと、作成を指導する聖敬会のスタッフが定期的に被災者を訪問することができる。また、被災者同士が集まって話しながらアクセサリーを作成することで、被災者は心の中に抱えた思いを吐き出し安くなる上、定期的集まるためコ</p>

コミュニティも徐々に強化されていく。加えて、ミサンガ等のアクセサリーは気仙沼にボランティアに来ている方に販売しており、その収益を作成者に還元している。自分が作成したアクセサリーが売れることで収入が入り家計の一助となる効果も認められるが、それ以上に自分でデザインした商品が売れること自体が被災者の自信向上につながり、精神的な安定につながっている面も見逃せない。

対象者の選定については、主に地域の公民会や集会場、また復興市などの催し物に合わせて説明会を実施し、参加者を募る。また、希望者については原則全員受け入れる予定である。(万が一現状の人員体制で受け入れが不可能な場合(ただし、参加者が70名を超えるような場合)は、人員体制を強化するまで説明会を休止することもありえる。)

現在、被災者20名程度を対象にプロジェクトを実施し、1ヶ月間で約500本のミサンガを作成・販売した。今回の協働事業では、特に事業立ち上げ期を支援していただき、今後の継続的な事業運営に繋げていく予定である。また、今後は参加者を70名体制まで拡大する予定であり、ミサンガだけではなく気仙沼特産のサメの歯を利用したアクセサリー等も作成し各地のイベント等で販売や紹介することで、気仙沼の現状を外部へ発信するツールとしても利用していきたいと考えている。

●期待する効果

アクセサリーの作成を通して、自宅に引きこもりがちになっていた被災者が外部との交流を持ち、新しいコミュニティへと入りやすくなることが期待される。また、参加した被災者の生活意欲・労働意欲の向上も見込んでいる。加えて、現在は気仙沼・本吉地区を中心に事業を始めているが、まずは本吉地区で事業に参加した被災者が今後は指導側へと周り、今後は気仙沼の他地域へも活動の輪を広げ、被災者自身の手でコミュニティ作りが気仙沼全域へと広がっていくことを目指している。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
<p>1. 担当者による被災者の見廻り</p> <p>ミサンガ等のアクセサリー作成の指導や完成品の回収、品質管理を行う聖敬会の担当者が定期的に被災者の見回りをを行う。具体的には、最低週1回は被災者の自宅を訪問し、アクセサリー作成へのアドバイスや進捗の確認をすると同時に、最近の生活の不安や悩みを聞き出し、また地域の有益な情報提供や復興に関する明るい話題等をざっくばらんに話すことで、被災者の孤独感を解消し、より早い立ち上がりを支援する。</p> <p>加えて、ミサンガだけではなく、他のアクセサリーの作成指導を行うことで被災者の作業のマンネリ感を払拭し、より長期的な関係構築へと繋げる。</p>	<p>被災者 70 人 被災者家族 280 人程度 本吉地区住民：約 10,700 人</p>

2. 被災者同士が集まる作成会の実施

ミサンガ等のアクセサリーの作成者（被災者）が週1回ほど定期的に仮設住宅の集会場等集まって、共同でアクセサリーの作成作業を行う。単純に集まるだけでなく、集まって同じ作業を行うことで被災者同士の一体感が増し、より早く強固なコミュニティ作りへと繋がるのが期待される。また、集会を行うことで近隣住民へも口コミが広がり、活動の拡大が見込まれる。作成会にはスタッフが参加し、作成の指導や場の雰囲気作りを行う。

同上